

特別支援学校企業向け見学会（概要）

平成30年11月30日特別号

北海道立特別支援教育センター

道央圏にある職業学科を設置する道立特別支援学校7校では、9月中旬から10月末にかけて、生徒の卒業後の就労先の拡充及び障がい者雇用の充実を図ることを目的として「特別支援学校企業向け見学会」を開催しました。

今年度は、延べ90社、143名の企業の方の参加がありました。

見学会では、学校の進路指導等の紹介や、職業センターから障がい者雇用に向けてのポイントとなる内容の説明を行うとともに、作業学習等の授業の様子を実際に見ていただきました。

見学会の最後には、意見交換会も行いました。



【進路指導担当教諭からの説明】

各学校の概要と進路状況について

はじめに、教頭や進路指導担当教員等が、各学校の概要説明及び進路指導や卒業後の支援の取組について紹介をしました。

特に、卒業後の支援については、職場定着に向け、卒業生に対して実態調査を行い、分析した結果を在校生にフィードバックしていることや、同窓会を実施する中で、旧学級担任や他の教員が卒業生から相談を受ける時間を設け、相談の内容に応じて職場と連携できるようなサポート体制を整えている等の取組を説明しました。



【学校の概要や進路状況等の説明】

障がい者雇用の現状について

見学会では、障害者雇用の現状等について、北海道障害者職業センターや道経済部から説明があり、障がい者雇用の重要なポイントとして、

- ①障がい者雇用の意義を十分に踏まえ、多様性や一人一人の個性、人間らしさを尊重すること。
 - ②障がい者雇用を充実させるため、職務開発や職務創出に取り組むこと。
 - ③障がい者雇用は、「誰にでも働きやすい職場作り」であり、「少しお手伝いが必要な人を一人前に育てる」という思いを大切にすること。
- の3点について参加者で共有しました。



【北海道障害者職業センターによる説明】

作業学習を見学した参加者の感想

- 大きな声で報告することを徹底するなど、勤務態度等についても、しっかり取り組んでいることが分かりました。（企業人事担当Aさん）
- すでに卒業生を雇用しており、熱心な働きぶりに毎日驚いていました。その理由が学校の勉強を通じて育まれたものだということを改めて実感しました。（企業人事担当Bさん）
- 一般企業からの受注作業を行うなど、勉強面だけでなく、責任のある仕事として取り組んでいることにより、質の高い取組につながっていると思います。（企業人事担当Cさん）
- 教師と生徒の距離感がよいと思いました。生徒の報告、連絡、相談が自発的にいえるような工夫が見られました。（企業人事担当Dさん）



【生徒からの説明】



【参加者からの御意見】